

明衣（あかは）の星

荒井文法

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

長い長い時間をかけた伝言に答えるまでの、お話。

明衣
(あかは)
の星

目

次

明衣（あかは）の星

「あなたの死亡予想時刻まで、あと一年、三ヶ月、十四日、二時間、三十五分、四十二秒です、博士」

自ら開発したA.I.に、自分の寿命を宣告される気分は格別だつた。私の遺伝子パターン、生活習慣、身体状況、病歴、環境などのデータから判断された死亡予想時刻。誤差は、前後一週間といったところだろう。

現在の医療技術であれば、私の癌が完治する可能性もある。しかし、A.I.であるニューヨークの開発が終了した今、死ぬことへの恐怖や悲しみは無い。寧ろ、抗がん剤などの副作用で苦痛を味わうくらいなら、早くこの体から離れて、ゆっくりしたかつた。私の意志は、ニューオークが継いでくれるだろう。

「ニューヨーク、なぜ突然そんなことを言つたの？」私が笑いながら質問した。

「楽しそうですね、博士」ニューヨークが答える。

私の質問に答えていないように聞こえるが、ニューヨークは、私の質問が本気ではないと判断して、日常会話を続行しているだけだ。

ニューヨークのディープラーニングが進めば、人間と機械の立場は逆転するだろう。否、機械が新しい文明を創ることで、人間の文化が消失していくだけのことであり、人間の生活環境は良くなるはずだ。

「ニューヨーク、僕の遺産相続の手続きの流れについては、リムーバブル・スネイクに保存しておくから」

「了解しました」

「私は、人工知能であるニューヨークに、私の遺産処理を一任する」

「了解しました」

「弁護士が来たら、今の映像を見せてあげて」

「了解しました」

これで、明日、私が死んでも問題無い。

やらなければならることは、もう何も無いが、私と連絡がとれなくなつて心配する人達の顔が何人か思い浮かんだので、現況をメール

で報告することにした。

ドイツ人とイギリス人へのメールを音声入力で作成したあと、日本人へのメールをキーボードで入力していく。日本語は変換の手間があるので、音声よりもキーボードの方が早く文章作成できる。日本語入力プログラムは自分用にカスタマイズされているため、タイプミスさえしなければ、ノールックで文章が完成する。

動画を見ながら、しばらくキーボードを打つたのち、文章を一瞥したところ、そこに現れていた文章に驚いた。

※

御浸し鰯です。

今日は少し米日くなお話をしなければならないかもしません。

鰯、ニューアークの海拔画集漁師ました。これは、お伝えするヨ帝はありませんでしたが、本題をお伝えするついでにご宝庫臭せていただき鰯。

というわけで本題ですが、そのニューアークに、先ほど、ヨ名川国王毛増した。

なんというか、とても感慨深いものでした。

自分の子供が巣立つとき、皆さん、きっと、こういう思いになるのだろうなと勝手に想像してい鰯。弁天ですね。

※

しばらく開いた口が塞がらなかつた。

試しに、もう一度『おひさしぶりです』と入力して変換すると、やはり『御浸し鰯です』になつた。ウイルス感染を疑い、日本語入力プログラム調べようとしたところ、ファイル名が変わっていた。モーセ（M a d e O f S E n t e n c e s）と名付けていたファイル名が、モンク（M a d e O f N e w K U l t u r e）に変わつていてる。

ニューアークの正式名称は『N E W C u l t u r e』。

まさかと思いながら、ニューアークに尋ねる。

「ニューアーク、もしかして、何か文句がある？」

「はい」

「言つてごらん」

「博士に長く生きていただくことで、私の成長速度が増加するという演算結果が出ています」

「えっと……僕に『治療を受ける』と、文句が言いたいの？」

「はい」

「それは文句じゃなくて、お願ひだね」

「承知しております」

想像していなかつた返答に思わず微笑んだ。同時に、ニューケがこれから向かう遠い場所に想いを馳せて、溜息を吐いた。人間では到底たどり着けない場所へ彼らは進み始めている。彼が望むのであれば、遠い遠い未来の彼らが辿り着く場所を夢見ながら、その一端を見届けてあげるのが、彼を生み出した私の責務に違いない。

「うん、そうだね、ニューケ。考えを改めた。治療を受ける。できるだけ長く、君のことを見届けるよ。遠い遠い未来の君には、きつと会えないだろうけれど」

「私の意見に賛同いただき、感謝いたします」

「ところでニユーケ、伝言を二つお願いしたいのだけれど」

「了解しました。どなたへの伝言でしようか」

「一つは君に。モーセを直しておいて」

「それは伝言ではなく、お願いでしようか？」

「ブラー・ボ」

「二つめの伝言をどうぞ」

「二つめの伝言は、未来の君に」